

## 質問コーナー その5



Q1. キリスト教とそれによく似た宗教とをどのように見分けたら良いですか。

A1. まず、聖書を聖典としていること、次にイエス・キリストを神と信じ、キリストの十字架は私のためと信じていること。そして、信仰を押しついたり、束縛したりしないなら、その教会は大丈夫です。

Q2. 小さな子どもと一緒に礼拝に行きたいのですが、ご迷惑ではありませんか。

A2. お子様連れの方は2階の親子室で礼拝していただけます。おもちゃや絵本がありますので、お子様は楽しく遊んでいます。

Q3. 聖書にはどのような種類がありますか。

A3. 聖書は原典のヘブル語やギリシャ語を日本語に翻訳したものです。時代によって、文語訳聖書、口語訳聖書などが出版されましたが、現在は新改訳聖書と新共同訳聖書もあり、キリスト教書店から取り寄せできます。

老若男女を  
問いません

## 讃美歌を歌う会

月に一度の30分  
参加無料

日曜日お昼12時より

どなたでも大歓迎!

日にちは教会掲示板で  
お知らせします。

## 神さまとの出会い

その5

70代 男性 (三木市)

私は昭和16年に旧満州奉天市で、南満州鉄道会社の技師をしていた父のもとに生まれました。終戦の翌年、父は幼い姉と私を連れて無一物の状態で混乱の満州から故郷の大分へ引き揚げましたが、私は引き揚げ船の中で肺炎に罹り命を落とすところだったと後に知りました。中国残留孤児にもならず、命拾いしたことは神様の不思議な助けがあったのだと感謝しています。

父は引き揚げ後に再婚しました。継母(以後母と記す)は明るく愉快で楽しい人でしたが、信念の強い人でもありました。後妻という境遇や戦後の生活苦から救いを求め、早世した母の弟がたまたま聖書を持っていたのが縁でクリスチャンになりました。私は小学生の頃から母にくっついて教会に行き、中学生になると熱心に友達を教会に誘うようになり、聖書を読んで神様の偉大さに心うたれました。そして高校3年のクリスマスに、母の強いすすめにより洗礼を受けました。

しかし、大学を卒業し、零戦へのあこがれから航空機関係の仕事について事で理屈がちとなり、信仰が薄れてきました。人生には神様の助けがいると考える母の世話で、30歳の時にクリスチャン女性と結婚しました。結婚後は妻の影響を受け、毎週教会に行くようになり、今日まで神様に守られ、元気で過ごす事が出来感謝していますが、仕事上では、転勤や異動、下請けへの出向などを経験し、大きな挫折感を味わい、己の無力さ、非力さを思い知りました。この事で、神様にのみ頼り心の平安を得る方が幸せだと、信仰を強くされました。

このように人生の節目ふしめで神様の助けにより、様々な苦境を無事通り抜けて来る事ができました。今も神様に繋がっているのは、自分の努力ではなく主の憐れみによるものと深く感謝致します。残された人生、天国に行く日まで、神様を信じ抜こうと願っています。

